

研究主題「コミュニケーションを図りながら、意欲的に活動し、 課題解決する生徒の育成

—中学校特別支援学級 作業学習における

「育成を目指す資質・能力」を明確にした単元計画と指導の工夫を通して—

東京都教職員研修センター研修部教育経営課

東久留米市立西中学校 主任教諭 加藤 美千子

第1 研究のねらい

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（平成23年1月31日 中央教育審議会答申）では、コミュニケーション能力、粘り強さ、課題発見・課題解決能力等が社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力であると示された。将来の自立と社会参加に向けて、これらの力を中学校段階から育むことが重要であるとする。

また、コミュニケーションの指導に関して、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）（平成30年3月）では、「双方向のコミュニケーションが成立する成功体験を積み重ね、自ら積極的に人と関わろうとする意欲を育てることが大切である。」「課題の設定を工夫して幼児児童生徒に「できた」という経験と自信をもたせ、コミュニケーションに対する意欲を高め、言葉を生活の中で生かせるようにしていくことが大切である。」と示されている。

このことから、生徒一人一人がもてる力を発揮できる環境を整え、互いにコミュニケーションを図りながら課題解決する場面を意図的に設定し、実際の活動の中で「できた」と感じられる成功体験を積み重ねられるようにすることで、生徒のコミュニケーション能力の向上と、自信と意欲を育むことができると考える。そのためには、生徒一人一人のできることを生かし、主体的に活動することを重視している、各教科等を合わせて指導を行う「作業学習」で指導することが有効であると考えた。

なお、作業学習は、作業活動を中心にしながら、生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。

また、各教科等を合わせた指導については、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月）の改訂に伴い「各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科等の目標を達成していくことになり、育成を目指す資質・能力を明確にして指導計画を立てることが重要となる。」と新たに追記された。このことから、作業学習において各教科等の内容を整理し、「育成を目指す資質・能力」を明確にして指導することが必要である。

そこで、本研究では、作業学習の「育成を目指す資質・能力」を明確化するための単元計画と指導の工夫に着目し研究することとした。

第2 研究仮説

中学校特別支援学級の作業学習において、各教科等の指導内容を整理し、「育成を目指す資質・能力」を明確にして指導するとともに、生徒同士で課題解決する場面を意図的、計画的に設定することで、コミュニケーション能力が育まれるであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

- (1) 育成を目指す資質・能力について、国立特別支援教育総合研究所等の先行研究を調査
- (2) 学習評価について、国立特別支援教育総合研究所等の先行研究を調査
- (3) カリキュラム・マネジメントについて、文献等を調査

2 調査研究

令和3年10月に都内公立中学校特別支援学級の教員10名及び生徒16名を対象に、作業学習等に関する質問紙調査を実施した。

(1) 教員対象の質問紙調査

「作業学習における、具体的な指導内容について教えてください」という設問に対して、「道具の使い方」「手指の操作性」等、技能面を挙げた教員が10名中7名であった。

一方で、「将来の自立と社会参加の実現に向けて特別支援学級に在籍する生徒の課題だと考える事項について教えてください」という設問に対して、「コミュニケーション」「社会性」を挙げた教員が10名中7名であった。

(2) 生徒対象の質問紙調査

将来、働くために自分に足りない力、身に付けたい力が「ある」と回答した生徒は、身に付けたい力について、コミュニケーションに関する事柄を多く挙げていた。(図1)

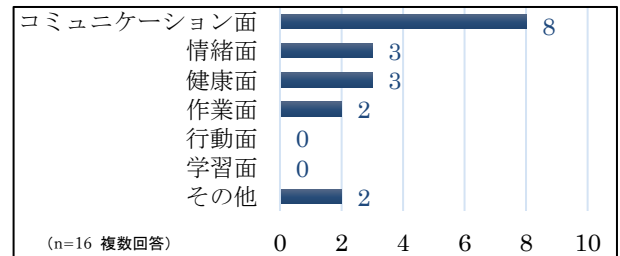


図1「将来、働くために、身に付けたい力について教えてください（自由記述を分類）」

教員対象と生徒対象の質問紙調査から、働くために必要な力を育む作業学習において、ものを作るために必要な技能面の獲得等に重点が置かれ、生徒の課題やニーズであるコミュニケーションに焦点を当てた指導が十分でないことが考えられる。

3 開発研究

(1) 作業学習 コミュニケーションチェックシート

中学校特別支援学級における作業学習の指導において、就業に必要なコミュニケーションを育むための「コミュニケーションチェックシート」を開発した。どの職場でも考えられる一般的なコミュニケーション場面を想定し、目標とする「生徒の姿」、「具体的な発言・行動」を示し、その姿や言動を引き出し「コミュニケーションを図るための手だて」を一覧表にした。学校により作業種が様々であることから、どの作業種の指導においても活用できる内容にした。

(表1)

表1 作業学習 コミュニケーションチェックシート（一部抜粋）

生徒の姿	具体的な発言・行動	コミュニケーションを図るための手だて	チェック
あいさつができる。 返事ができる。	おはようございます。 おつかれさまでした。 失礼します。 はい、分かりました。 ありがとうございます。	あいさつの基本（声量・視線・姿勢・表情・距離）を学ぶ時間を設定し練習する。 場に合わせた声の大きさが分かるように、イラストやグラフを使って視覚的に表示提示する。 視線・姿勢・表情をイラストで表示提示する。 あいさつ・返事をする際のポイントを分かりやすく示した絵カードを活用する。 （個々の課題に応じて絵カードを変えながら教示する。） 作業に必要なあいさつの言葉を作業室に掲示しておき、生徒がいつでも確認できるようにする。	
報告ができる。	終わりました。 確認をお願いします。 次は何をしたらよいですか。	作業工程を短く区切り、報告する機会を増やす。 報告するタイミングを示す。（タイミングは個々の生徒が分かりやすい方法で知らせる） ・タイマーを使い、時間になったら報告する。 ・ベルを鳴らし、音が鳴ったら報告する。 ・作業量を示し、全部終わったら報告する。 報告する相手が誰であるかを示す。 ・生徒の班長→班の担当教員→全体を統括する教員等、実際の職場に近い組織をつくる。 ・連絡系統を決めて、報告する順番を明確にする。 報告の語型が書いてあるカードを活用する。 （慣れてきたらカードを見なくても言えるようにする。） 報告の仕方についてモデルを示す。（モデルとなる上級生や教員を班に配置する。） 報告に必要な言葉を作業室に掲示しておき、生徒がいつでも確認できるようにする。	

「コミュニケーションを図りながら、意欲的に活動し、課題解決する生徒の育成
 一中学校特別支援学級 作業学習における「育成を目指す資質・能力」を明確にした単元計画と指導の工夫を通して」

(2) 作業学習 単元計画シート

各教科等を合わせた指導である作業学習は、指導内容が多岐に渡る。そこで、教員が単元計画を立案する際に、育成を目指す資質・能力を明確にするための支援ツールとなる「作業学習単元計画シート」を開発した。学校教育目標からのつながり、単元全体で育成を目指す資質・能力、各教科等の目標と学習内容・指導方法、個別の実態と自立活動との関連を整理できるようにした。また、単元構成表を活用して、問題発見・解決能力等を育む場面や、単元の評価計画とルーブリック評価表を活用して、観点別学習状況の評価規準を見取る場面を計画できるようにした。(表2)

表2 作業学習 単元計画シート (一部抜粋)

作業学習 単元計画シート (単元名: 版画カレンダー)

学校教育目標	「進んで学ぶ」「人を思いやる」「体力をつける」
学級目標	「進んで学び、創造する力を付ける」「お互いを認め、協力し合える力を付ける」「規律ある生活ができる力を付ける」
作業学習で目指す生徒像	自ら考えて動き、仲間と協力しながら、作業活動できる生徒
単元目標	自分の役割を理解し、友達と協力し作業に取り組む
単元全体の評価規準 (何を学ばせたい授業なのか)	
知識・技能	① 材料や道具の準備片付けの仕方が分かっている。 ② 自分の役割分担と作業手順を理解し、見通しをもちながら取り組んでいる。 ③ 適切な言葉遣いができている。
思考・判断・表現	① 挨拶・返事・報告・相談を行っている。 ② 周りの友達に気を配り、教えたり、励ましたりしている。 ③ 作業を振り返り、自分や班のよい点や課題に気づき、改善点を考えている。
主体的に学習に取り組む態度	① 働くことを意識して、課題意識をもって取り組んでいる。 ② 自分の分担だけではなく、班全体のことを考え働いている。

各教科等の指導目標等 (何を学ばせたい授業なのか)

教科等	何ができるようになるか (資質・能力)	何を学ぶか (学習内容)	どのように学ぶか (指導方法等)
職業	・職業生活に必要な基礎的な態度を身に付ける。 ・自分と他者の役割を理解し、意欲をもって取り組む。 ・作業の効率について考え工夫する。	・作業に必要な挨拶・返事・報告・相談を行う。 ・自分と友達の役割が分かり見通しをもつて取り組む。 ・友達の様子に気を配り、教えたり、励ましたりしながら作業する。 ・班のよい点や問題点を考え解決策を考える。	・異学年編成の班で取り組み、生徒同士で教え合い、協働しながら取り組む。 ・作業マニュアルを作成することで自ら動くようにする。 ・生徒同士で課題解決する場面を設定する。(役割分担決め、進捗状況確認、中間報告、振り返り、反省会)

単元構成表 (期間: 9月~1月) (全時数: 30)

学習活動	具体的な活動内容	言語能力	情報活用能力	問題発見・解決能力	振り返り	時数
カレンダーを作成する。	表計算ソフトを使って、カレンダーを作る。		表計算ソフトを使い作成する。	使いやすいものに改良する。		2
印刷する。	役割分担を決める準備・片付けをする。 班で印刷する。 振り返る。	経験者が作業のやり方を教える。		効率を考えて役割分担を決める目標達成に向けて中間報告をする。	自己評価教師の評価班のよい点改善点について話し合う。	18
製本する。	部品を作る。 詩集を作る。 役割分担して製本する。	経験者が作業のやり方を教える。		適材適所を考えて役割分担を決める。		4

単元の評価計画 (何を学ばせたい授業なのか)

学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1時~第4時	① 材料や道具等の準備や片付けの仕方がわかっている。		
第5時~第8時	② 自分の役割分担と作業手順を理解し、見通しをもちながら取り組んでいる。	② 周りの友達に気を配り、教えたり、励ましたりしている。(3年)	
第9時~	③ 適切な言葉遣いができて	① 挨拶・返事・報告・相談を行	

ルーブリック評価表 「国語」

	評価規準	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (指導支援の見直しが必要)
知識・技能	発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話す。	状況に応じて、音量や速さを変えて話している。	相手に聞き取れる音量と速さで話している。	相手に伝わるように話していない。
思考・判断・表現	分からないことや知りたいことを聞くことができる。	分からない点や確かめたい点を質問したりして内容をつかむことができている。	説明や指示を概ね理解している。分からないときは聞き返したりしている。	説明や指示を理解していない。分からないことを伝えていない。
主体的に学習に取り組む態度	役割分担や課題解決等	必要に応じて理由を付け	伝えたい事柄を考え、	伝えたいことを明確に

4 検証授業 (令和3年12月実施)

以下の3点に留意し、都内公立中学校特別支援学級の生徒を対象に、単元名「版画カレンダーの製作」を実施した。

(1) 育成を目指す資質・能力の明確化

- ・コミュニケーション能力を育むことを軸として各教科等の目標と指導内容を設定
- ・各教科等の評価規準を設定したルーブリックの作成
- ・作業前に生徒と教員が評価項目を確認し合う場面の設定
- ・作業後に生徒の自己評価と担当教員の評価を個別に照らし合わせる場面の設定

(2) 生徒同士で課題解決する場面の設定

- ・班員の適材適所を考え話し合う「役割分担決め」
- ・進捗状況を確認し、本時の目標枚数を達成させるための改善策を検討する「中間報告」
- ・作業を振り返り、班のよい点と課題点について付箋を使って考え伝え合う「反省会」

(3) コミュニケーションを図るための手だて

- ・異学年の生徒が役割分担して作業できるような環境の設定
- ・様々な実態の生徒が力を発揮できるような班編成の工夫

(4) 検証授業前後の生徒対象調査の比較

「作業中、困ったときに、どのように解決していますか」という設問に、検証授業前は「先生が教えてくれるのを待つ」と回答する人数が多かったが、検証授業後は「友達に聞いて解決する」と回答する生徒が11名増えた。(図2)

そして、「作業中、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりしていますか」という設問に「はい」と回答する生徒が7名増えた。(図3)

また、「作業後の振り返りでは、自分の課題を考えたり、次の目標を見つけたりしていますか」という設問に「はい」と回答する生徒が12名増えた。(図4)

そして、「働くために必要な力は何だと思いますか」という設問に、協調性に関する記述が増加し、「働くために身に付けた力について教えてください」という設問に、自分たちで考える力、自分で判断する力、自分の課題を見つける力等、理解力・判断力・課題発見力に関する記述が新たに出現した。

これらのことから、生徒の「働くために必要な力」についての課題意識が深まるとともに、次の活動への目標設定と活動意欲につながったことが分かった。

(5) 授業中の観察

作業の途中で進捗状況を確認する中間報告では、本時の班の目標数達成に向けて、進捗が遅れていることに気が付き、途中で役割分担を変更する等、課題解決する生徒の姿が見られた。

また、意図的に設定した「役割分担決め」「中間報告」「反省会」だけではなく、作業中に直面する失敗の原因や作業の遅れ等の問題に、以前は教員から支援を受けることで解決していた生徒が生徒同士で教え合ったり、試行錯誤したりして課題解決する姿が見られるようになった。

(6) 班担当の教員への聞き取り

検証授業前は、生徒が動くことができるように指示や手助けを行っていたが、育成を目指す資質・能力を明確に示したことで、「評価規準を基に教科の目標が達成できるように声を掛けるようにした。」「生徒が気付いたり考えたりするような声掛けの仕方を意識した。」等、生徒への関り方が変容したことが分かった。

第4 研究の成果

- ・ コミュニケーションを軸にして各教科等の指導内容を整理し、育成を目指す資質・能力を明確にして指導することで、教員の関わり方が変容した。
- ・ 作業中に直面する問題に、生徒同士で意欲的に課題解決する姿が見られた。

第5 今後の課題

作業学習だけではなく、教科別の指導においても生徒同士で課題解決する学習を充実させ、教育活動全体を通して、コミュニケーション能力や課題解決能力を育む。

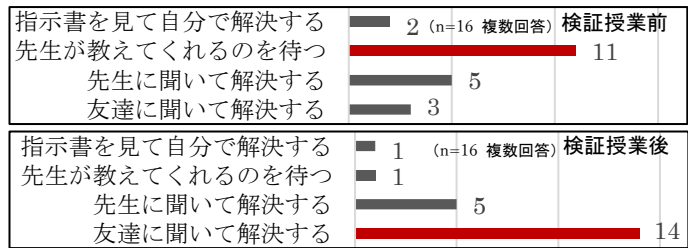


図2 「作業中、困ったときに、どのように解決していますか」

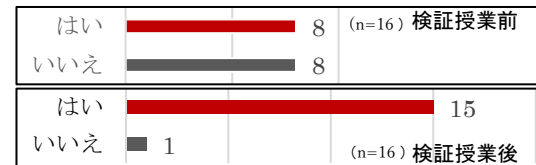


図3 「作業中、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりしていますか」

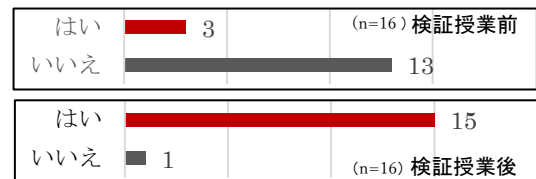


図4 「作業後の振り返りでは、自分の課題を考えたり、次の目標を見つけたりしていますか」